

日本三大旗祭りの一つ
国指定重要無形民俗文化財

木幡の幡祭り

山並みに勇壮な木製法螺貝の音が響く中、
白幡を先達^{せんだつ}に色とりどりの幡を大空にひる
がえし縦走する、二本松市の初冬の風物詩



いにしえの伝統を今に受け継ぐ
960有余年にわたる





③



④



⑤

③冬の寒空の下、水垢離で身を清める幡祭りの参加者たち④色とりどりの旗を手に、およそ30メートルを疾走する幡競走⑤治家公園下の一の鳥居の急な階段を、各堂社の旗持ちたちが勢いよく駆け上がる



①



②

①昨年の権立2人。権立とは初参加をする若者のことで、赤地の着物や母親の襦袢などを着て参加し、木で作った「太刀」と、わらで作った「袈裟」を身につける。
②権立が胎内くぐりをした後の「権立よばり」をしている様子。胎内くぐりとは成人儀礼のひとつで、羽山神社の下に「くぐり岩」があり、権立はこの前に太刀と袈裟を納め、岩の間を抜ける「胎内くぐり」を行う。その後、くぐり岩の上と下に立った先達たちが大声で問答をする「権立よばり」の儀式を行うことで、権立は晴れて大人として認められる。

日程

■12月3日(土)

みずごり
水垢離…井戸などで裸で水を浴び、身を清めます。
18:00～ 木幡山参宿所前にて

■12月4日(日)

場 所 旧木幡第一小学校グラウンド(出立式)

8:30～ 各堂社(集落)の幡集合
9:00～ 出立式
9:30～ 幡競走、木幡音頭踊り、餅つきなど
10:00～ 出立(幡行列の出発)
11:00～ 治家公園着(昼食、イベント)
12:30～ 治家公園出発
14:30～ 羽山神社着(胎内くぐりなど)
15:40～ 隠津島神社着

解散 ※時間は全て予定時間となります。

～由来～

祭りの起りには、天喜3年(西暦1055年)。今から約960年前の「前九年の役」の最中、陸奥地方鎮定に向かった源頼義とその子・義家率いる軍勢は、時の豪族・安倍一族との戦いに敗れ、わずか数騎で付近の農家で宿をとっていた。するとその夜、天女が夢枕に現れて「弁財天宮で祈願すれば願いが叶うだろう」とお告げを受けた。敗戦の覚悟をしていた頼義父子は、夢に従い神社にて戦勝を祈願したところ、その夜、折からの雪で山上の木立はすべて源氏の「白旗」のよう見え、攻め寄せてきた安倍貞任らの軍勢は、これを源氏の大军と思い込み、戦わずして退散してしまった。

これが陸奥鎮定の原因となり、朝廷に申し上げたところ、天皇はその山を「木幡山」、山すその別当寺院を「治陸寺」(陸奥を治める寺)と名付けられ、後冷泉天皇より宸筆の額を賜った。

その後、神仏の加護を深く信ずる郷土民により、源氏の白旗に見立てた旗を木幡山、そして別峰羽山神社に奉納する勇壮な平安絵巻「木幡の幡祭り」として960有余年にわたり引き継がれ今に至っている。

